

第 2 号議案 2012 年度 事業報告

(1) 年次大会(第 109 回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2012」開催報告

実行委員長：鶴岡亮一，実行副委員長：上原康博，中山信行

2012 年 6 月 11 日（月）～13 日（水）の 3 日間，日本画像学会年次大会（通算 109 回）〔Imaging Conference JAPAN2012〕を横浜市緑区にある東京工業大学すずかけ台キャンパス「すずかけホール」にて開催しました。例年のとおり，ハードコピーをはじめとする各種マーケティング技術，電子ペーパー/エレクトロニック・イメージング/新規イメージング/デジタルファブリケーション技術，そして画像関連技術，計測/シミュレーション技術など，全部で 8 技術分野，19 のセッションを設けました。その中で，一般講演 61 件，特別講演 8 件（キーノートスピーチ 3 件，ビジネスセッション 3 件，受賞記念講演 2 件）を行い，また技術ワークショップ 3 テーマと関連企業 12 社による展示会を開催しました。

今回は，大会コンセプトを『Power of Image』とし，画像や写真の持つ感性に作用する力や人同士をつなぐ力を見つめ直そうという趣旨で開催いたしました。2011 年 3 月の東日本大震災では，ガレキの中から写真や画像が回収復元され，多くの被災者から感謝されました。サブタイトルである『クラウド時代におけるペーパーメディアの真価と進化』のなかで，画像の持つ価値を改めて問い直し，目指すべき姿を見出して将来につなげていこうというものです。『Power of Image』を訴求するべく，特別写真展示会を開催し，銀河や月，地球，そして火山，動物，昆虫，さらに画像断面やトナーまで，マクロからミクロスケールまでの被写体を大サイズ写真で展示し，参加者に大いにアピールしました。

大会初日は，鶴岡亮一大会実行委員長（富士ゼロックス株式会社デバイス開発本部長）より，開会の挨拶を行い，3 日間の大会の幕を開けました。引き続き，キーノートスピーチとして「クラウド&モバイル時代の仕事のコミュニケーション環境を変革」と題し，富士ゼロックス株式会社小栗伸重様より，仕事のコミュニケーションにおける課題と，コミュニケーション，コラボレーションを円滑化するクラウドサービスの企画意図やコンセプト紹介がなされ，今後のサービスや画像処理技術が活用されるべき，新たなコミュニケーション環境の考察がなされました。

同日午後には，ビジネスセッションを開催し，『サイネージで広がる画像表現』というテーマで 3 件の講演をいただきました。2010 年テーマの「画像の進化」，2011 年テーマ「創造する文字，伝える文字」の延長として，画像や文字の重要な活用領域のひとつであるサイネージについて議論の場を設けるべく企画しました。文字や画像自体が持つ価値に加え，これらが伝達手段によりどのように変化して伝えられ，新たな価値を生むのかを議論しようというものです。最初に，株式会社博報堂青木雅人様より，「生活者発想，ショッパー発想でのデジタルサイネージ導入」のご講演をいただきました。デジタルサイネージを導入する企業が増えてきている一方で，購買行動の喚起に成功している事例がまだ少ない現状を述べ，テクノロジーオリエンテッドな設計を生活者発想・ショッパー発想での設計に変えることの重要性と事例を解説いただきました。次いで，富士フイルムイメージングシステムズ株式会社三瀬隆様には，「デジタルサイネージの取り

組みについて」と題して、交通広告や商業施設などにおける具体的なデジタルサイネージの取り組みをご説明いただきました。最後に、元日本工業大学山田千彦様、アロンズ株式会社安永正明様より、「レンチキュラー方式 3D ディスプレイ技術とサイネージへの展開」についてご講演をいただきました。1960年に国内で初めて商品化されたレンチキュラー方式（通称「ステレオ印刷」）の技術と具体的事例アイデアと実施例を解説いただきました。

ビジネスセッションと平行して、インタラクティブのポスター発表を製品展示会と併設で開催しました。このポスター会場では、この日の夕方に懇親会も開催しました。ポスター発表技術の討論、各展示会社様との技術交換に加え、学会参加者の親睦や休憩の場として、有効に活用することができました。

大会2日目は、キーノートにおいて「DRUPA 2012に見るデジタル印刷技術 一何が変わり、何が変わらないか」とのタイトルで、先に開催された DRUPA 2012 の動向報告を前会長（現 HiRAK）平倉浩二様よりご講演いただきました。Drupa の見どころを過去からの技術の変遷も踏まえて解説いただき、300名収容のメインホールが満員になる盛況で、参加者にも大変好評でした。また、この日は、3件のワークショップのうち、「日本画像学会新ビジョンと技術ロードマップ」と、「インクジェット技術の進化を考える」、の2件を開催しました。もう1件、「電子ペーパーのこれまでの10年、これからの10年」を最終日に開催しています。

3日目は、「画像は錯視に満ちている 見たものを正しく疑うための数理」と題し、明治大学大学院先端数理科学研究科杉原厚吉様に、キーノートスピーチをいただきました。「錯視」について、画像を眺める際の視点位置の任意性と、視点位置を決めた上での奥行き復元の任意性という要因について、事例を交えて解説いただきました。立体錯視の現物も会場で展示し、ご講演と合わせて好評を博しました。

本大会では、昨年度までと異なり、会場を横浜市にある東京工業大学に変えました。すずかけホールの2Fと3Fに会場を集約して開催し、コンパクトなレイアウトと、会場間の行き来のしやすさなどが大変好評でした。開催にあたって絶大なご協力いただきました、東京工業大学関係者に深く感謝いたします。予想より入場者の多い会場があり窮屈になったこと、オーサーズインタビューの場所が手狭であったことなど、参加者にご迷惑をおかけした部分も多々あります。深くお詫びするとともに、次回以降の課題といたします。

最後に、本大会を運営する上で例年以上にご協力をいただきました実行委員の皆様、理事会の皆様、また多くの研究発表をいただいた大学関係者の方々、並びに画像技術に関わる各社の研究開発者の皆様へ感謝を申し上げますとともに、ご参加いただいた多数の会員の方々へ御礼を申し上げます。今後も、ICJへのご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

プログラムは本稿後半に記載（付録1）。

(2) 総会

2012年 6月 11日 Imaging Conference JAPAN 2012(ICJ2012) 開催初日に東京工業大学すずかけホールにおいて第55回定時総会を開催した。2012年度からは出欠連絡と各議案の賛否投票についてはweb回答可能な会員にはハガキ送付を廃止した。この結果、個人会員からの回答率は63.6%であった。(2010年度:67.7%、2011年度:62.7%で、ハガキ送付を併用した前年度と大差ない回答率のため次年度もこの方法を継承する方針である)。

第55回総会は半那会長の挨拶の後、半那会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

- ① 2012-13年度役員候補の承認 (第1号議案)
- ② 2011年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認 (第2号議案、第3号議案)
- ③ 2012年度事業計画および同収支予算の報告 (第4号議案)

第55回定時総会の議案と議事録は、当学会ホームページからもご覧いただけます。

http://www.isj-imaging.org/about_ISJ/assembly.html

(3) 2011年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2011年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会 KM 研究奨励賞、日本画像学会 KM 研究賞および名誉会員の選考を行い、2012年 6月 11日開催の表彰式の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。

(敬称略) 掲載号: 日本画像学会誌, 第 51 巻, 第 4 号, (通巻第 198 号), pp. 414-423

<論文賞 (第 26 回) 1 件>

著 者: 尾崎敬二 (国際基督教大学)

論文名: 「デジタルカメラ近赤外画像による植生指数推定の試み」

掲載号: 日本画像学会誌, 第 50 巻, 第 6 号, (通巻第 194 号), pp. 514-520

<研究奨励賞(第19回)3件>

①井辻 健明 (キヤノン株式会社)

「テラヘルツ波を用いたトモグラフィックイメージングシステム」

Imaging Conference Japan 2011, pp. 193-196

②斎藤 和広 (コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社)

「X線による可視化及びシミュレーションを用いた現像器内現像剤の挙動解析」

Imaging Conference Japan 2011, pp. 237-240

③渡辺 壮 (早稲田大学)

「電子写真の二成分磁気ブラシ現像システムのシミュレーション」

Imaging Conference Japan Fall 2011, pp. 25-28

<日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞 (第 7 回) 1 件>

関谷 毅 (東京大学)

研究題目: 「大規模プリントドエレクトロニクス」

<日本画像学会ユニカミノルタ研究賞（第7回） 1件>

井辻 健明（キヤノン株式会社）

「テラヘルツ波を用いたトモグラフィックイメージングシステム」

Imaging Conference Japan 2011, pp. 193 - 196

<会長特賞（第12回） 1件>

長谷部 恵（富士ゼロックス株式会社）

<名誉会員（第6回） 2件>

田嶋紀雄

高橋 通

<技術賞（第22回） 3件>

① 技術：「ワンパスフォト印刷を実現した DreamLabo 5000 の技術」

キヤノン株式会社 西城泰嗣、広沢稔明、佐藤陽平、真船久実子、渡部育朋

② 技術：「鮮やかな色再現で Vivid な価値を提供することに挑戦したハイクロマトナーの開発」

ユニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社 安川裕之、松島香織、林 健司、大福幸司、白勢明三

③ 技術：「中空粒子を用いた水性白色インク搭載のインクジェットプリンタ」

セイコーエプソン株式会社 加賀田尚義、瀬口 賢一、畠中 祐二、佐野 強

(4) 年次大会(第110回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2012 Fall Meeting」開催報告（関西委員会）

2012年11月30日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地)にて、Imaging Conference Japan 2012 Fall Meeting を開催した。技術賞受賞記念講演3件、一般口頭発表8件、ポスターセッション10件の発表があった。研究討論会への参加者は61名(前年91名)であった。

今回も、一つのテーマを少人数で深く議論をするワークショップを併設した。山崎実行委員(花王株式会社)が司会を務め、「画像評価技術の現状と今後」をテーマに、技術講習会の画像評価機器メーカー講師の方々と、有料参加者7名とで計測技術の進むべき方向について議論を深めた。

プログラムは本稿後半に記載(付録2)。

(5) 評議員会

2012年3月7日に東海大学校友会館(東京・霞が関)において開催し、2011年度事業報告、同財務報告、2012年度事業計画、同財務計画、及びICJ2012概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。出席者は56名(評議員21名、顧問2名、役員他33名)で終了後、特別講演会、懇親会を行った。

(6) 理事会

下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、2012年度選奨、2012年度予算執行状況の確認、2013年度予算案の審議・承認等をおこなった。

第1回：2012年5月21日（月）午後4時～6時	霞会館
第2回：2012年7月30日（月）午前10時～12時（午後：役員研修会）	富士ゼロックスみなとみらい事業所
第3回：2012年10月11日（木）午後3時～7時	霞会館
第4回：2012年12月13日（木）午後3時～6時	霞会館
第5回：2013年2月13日（水）午後3時～6時	霞会館
第6回：2013年3月13日（水）午後1時30分～3時	東海大学校友会館

2012年度の理事会報告で特筆すべきは、副会長ポストの新設と選任である。2011年度から理事会で検討・審議してきたもので、2011年度第6回理事会で正式決定、12年度第1回理事会で副会長選考委員会を立ち上げ、酒井理事が委員長を務めることを承認、全役員からの公募・推薦の手順を経て2012年10月11日第3回理事会で竹内理事、面谷理事の2名を副会長に選任した。副会長の任期は2年とし会長と連動することとした。これに伴う役員改選規程も改訂し理事会で承認した。

更に12年度第3回理事会で、正副会長と運営委員長で「執行部」を形成することを承認した。執行部は、学会運営に関わる諸案件を検討し、必要に応じてこれを理事会や部会に諮りながら、学会の向かうべき方向性の明確化、外部団体との連携促進、学会内の活性化推進、等に関するアクションを迅速に執り行うことをミッションとする。

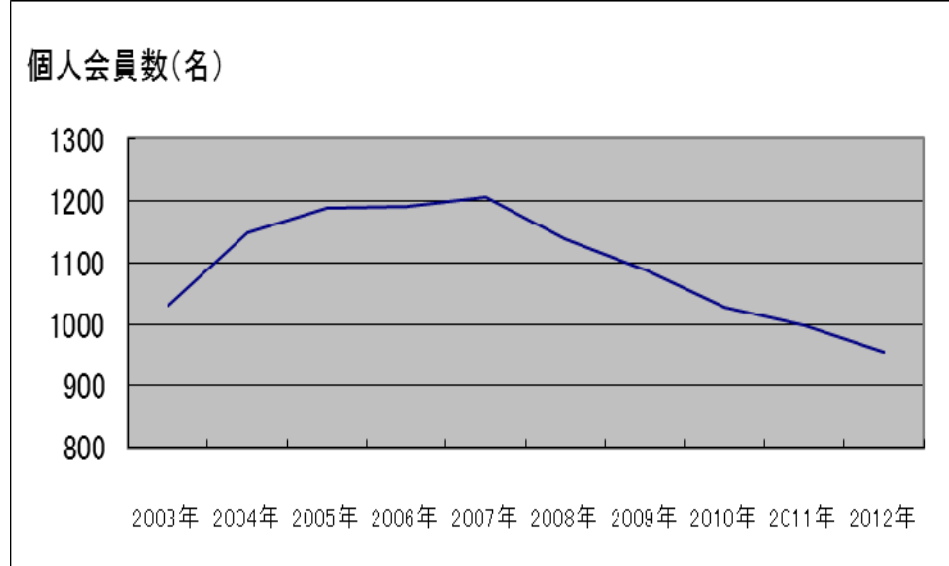
(7) 事務局報告 事務局長 緒方信康

- ・ イベント関連では例年とおりの研究討論会、研究会、講習会、フリートーキング、イメージングカフェに加え電子ペーパー国際シンポジウムを開催した。イベントの開催回数23回、開催日数27日と前年より増えたが、参加者数トータルでは前年を下回る結果となった。
- ・ 学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号1500部前後であり、年6回、編集委員会→印刷会社→発送会社経由で発行されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。
- ・ イベント参加登録のWeb経由システムは全ての研究会、研究討論会、講習会への導入を完了した他、研究討論会（ICJ、ICJ Fall）では発表者のエントリーや予稿登録もWeb経由で可能となった。
- ・ 理事会、各種委員会・部会の開催件数は例年同様、年間90件以上で活発な議論が交わされている。

○年度別個人会員数の推移

2003年度～2012年度末まで10年間の会員数推移を示す。2008年から漸減状態が続いている。

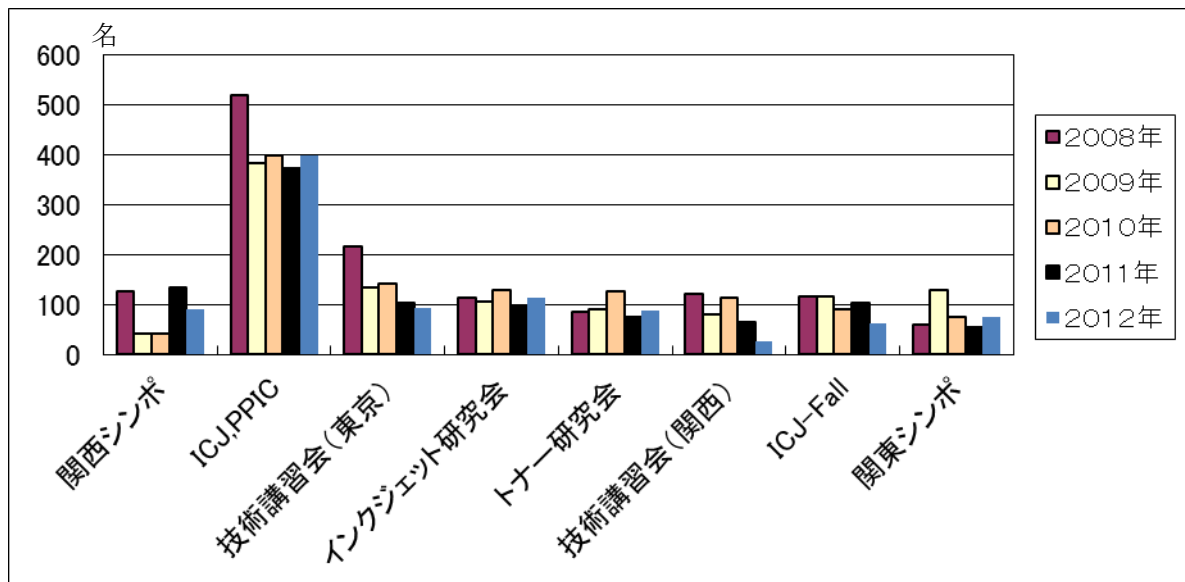
年度	個人会員数(名)
2003	1029
2004	1147
2005	1188
2006	1190
2007	1206
2008	1137
2009	1087
2010	1027
2011	998
2012	944



*2012年度は3月末の予想数字

○学会の主なイベント参加者推移

2008年度～2012年度の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの有料参加者推移を示す。有料参加者数は2010年後半に回復傾向が見られたが、その後減り続けており2012年度は前年度実績の94%となった。



(8) 編集委員会 委員長 前田秀一 (東海大学)

委員長交代も含め編集委員の入替えがあった。編集委員会開催 6 回 (内 1 回は年間編集計画の為、合宿を開催)、フリートーカーキング” Imaging Today” 開催 2 回、学会誌年 6 冊定時発行、本年度も年 6 冊の学会誌の内、1 冊 (199 号) をクラスタ論文誌として全論文を特定技術分野に絞り、全て英文化した形で発行した。今後も年 1 回のペースでクラスタ論文誌の発行を行う予定である。研究室訪問、教育講座などの企画もこれまで通り実施した。国際化への対応の一環として、昨年の韓国の画像学会誌に加え、本年は中国の画像学会誌の目次の掲載をはじめた。本年は 200 号記念号を発刊した。特に「学会誌通巻 200 号によせて」として 100 号以降の歴代編集委員長より寄稿文をいただき、100 号以降の総目次を入れた。また、各技術委員会に査読を依頼できるような形を整えるなど、査読体制の充実化を図った。さらに、長らく手の付けられなかった投稿規定/手引きの大幅な改定を、ワーキンググループを作った上で実施した。

195 号 (Vol. 51, No. 1) 2 月刊, 114 頁, 巻頭言 (会長), 一般論文 3 件, Imaging Today 「過去および現在の作像技術の本質を探る」, 教育講座「トライポロジー入門Ⅲ」, 研究室訪問「東京理科大学 近藤研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

196 号 (Vol. 51, No. 2) 4 月刊, 130 頁, 一般論文 3 件, Imaging Today 「過去および現在の作像技術の本質を探る (後編)」, 教育講座「トライポロジー入門Ⅳ」, 研究室訪問「信州大学 高橋研究室」, 会報, 追悼文, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

197 号 (Vol. 51, N. 3) 6 月刊, 82 頁, 一般論文 1 件, Imaging Today 「作像技術における著名な特許」, 教育講座「トライポロジー入門Ⅴ」, 研究室訪問「大阪大学 能木研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

198 号 (Vol. 51, No. 4) 8 月刊, 157 頁, 巻頭言 (会長), 一般論文 3 件, 解説 1 件, Imaging Today 「インクジェット技術の多分野への応用」, 教育講座「界面活性剤入門Ⅰ」, 研究室訪問「国際基督教大学 尾崎研究室」, 2011 年度学会表彰, 一般社団法人日本画像学会第 55 回定時総会資料, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・韓国画像学会誌 (KSIST) の目次, 画像閑話

199 号 (Vol. 51, No. 5) 10 月刊, 67 頁, クラスタ論文誌「New Application Field of Digital Printing Technology」, Prefatory Note, one Original Papers, three Invited Papers, three Invited Review, 教育講座「界面活性剤入門Ⅱ」, 研究室訪問「山形大学大学院 中山研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌の目次, 画像閑話

200 号 (Vol. 51, No. 6) 12 月刊, 122 頁, 巻頭言 (編集委員長), 学会誌通巻 200 号によせて, 総目次: 通巻 100 号 (1992 年 9 月) ~ 200 号 (2012 年 12 月), 一般論文 2 件, Imaging Today 「最新のデジタルアーカイブ技術」, 教育講座「界面活性剤入門Ⅲ」, 研究室訪問「大阪大学 中山・平原研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・韓国画像学会誌 (KSIST) の目次, 画像閑話

第 21 回フリートーカーキング” Imaging Today” 「色を科学する」, 2012 年 4 月 27 日 (金) に、東京工業大学すずかけホール (横浜市), 参加者 45 名

第 22 回フリートーカーキング” Imaging Today” 「インクジェット技術の多分野への応用」, 2012 年 11 月 15 日 (木) 開催, 東京工業大学すずかけホール (横浜市), 参加者 42 名

(9) 技術委員会 委員長 面谷信 (東海大学)

1. 技術委員会全体の活動状況

- (1) 2008年度よりの委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制を、2012年度も継続。
- (2) 2012年11月19日(月)に第1回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技術委員会関連の課題等について議論を行った。2012年度は、2013年1月25日(金)(技術委員会総会と同日)に第2回目の主査会議を開催した。
- (3) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として2012年度は2013年1月25日(金)に開催した。総会に先だって同日に9つの部会が開催された。
- (4) ICJのワークショップに技術委員会からの企画で2件のワークショップ(各々、インクジェット技術部会、電子ペーパー部会の主催)を開催した。
- (5) 選奨対象候補のエントリー数増加に技術委員会として協力し、技術委員会として各部会に積極的に候補抽出を督促し、技術賞、ユニカミノルタ研究奨励賞、会長特賞の候補抽出に貢献した。
- (6) 2011年4月～2012年3月の間にシンポジウム1回(電子写真技術部会:11/22)、国際シンポジウム1回(電子ペーパー部会とデジタルファブ리케이션部会の合同:10/31-11/1)、技術研究会3回(サーマル記録技術部会:第114回(7/4)、インクジェット技術部会:第115回(9/29)、トナー技術部会:第116回(10/19)、および画像4学会合同研究会(画像処理部会:12/10)を開催した。

2. 各部会の活動状況

1) 画像評価技術部会

- ・ 4回の部会を開催し、ICJ2012 WSでは部会の技術ロードマップを報告、部会では新規テストチャート開発等について審議を継続中。

2) 電子写真技術部会

- ・ 定例会会4回、シンポジウム企画会議を4回、企画合宿(信州大学 阿部先生訪問、信州大学繊維関連成果見学)を1回開催した。
- ・ 日本画像学会誌 第51巻 第2号 「電子写真の発展を支えたイノベーション」解説記事執筆 (永瀬・校條・服部・渡辺・松代)
- ・ 信州大学 学生向け静電気記録実験を含めた電子写真技術講座を開催。
- ・ 日本画像学会シンポジウム「電子写真技術～発展へのキーワードと最新技術～」(11月22日、於: 発明会館)を企画・開催した。

3) トナー技術部会

- ・ 定例会議を5回、合宿会議と研究会を各1回開催。
- ・ 主な活動項目は、以下の4つである。
- ・ 3.1 標準キャリアの帯電量を検定するための、トナーの代替となる標準粒子の探索
- ・ 3.2 トナー関連技術の深耕につながる技術研究会の企画及び開催
- ・ 3.3 標準キャリアの利用を促すために研究会での標準キャリア関連の検討内容の報告
- ・ 3.4 用語部会のサポート
- ・ 上記3.1と3.3に関しては、標準キャリアの帯電量を検定するためのモデル粒子の平均帯電量と帯電量分布に関する検討を行い、その検討経過を10月の研究会で報告した。
- ・ 上記3.2に関しては、「深化する解析技術・進化するトナー技術」をテーマとし、7つの講

演を集めた研究会を 2011 年 10 月 19 日に開催した。

- ・ 上記 3.4 に関しては、第一次改定案を用語部会に提出した。

4) 画像処理技術部会

- ・ 3 回の部会を開催し、メール等も利用して、ICJ2012 での技術ロードマップに対応した画像処理技術のロードマップの検討、画像処理技術について振り返り、まとめていくための教科書の企画検討等を行なう共に、部会再構築へ向けた委員の絞り込みを行った。
- ・ 画像 4 学会合同研究会については、画像、写真、印刷学会に共通なプリントドエレクトロニクスを取り上げ、「画像形成技術が拓くフレキシブル・プリントドエレクトロニクス」のテーマで 12 月 10 日に開催した。関係するデジタルファブ리케이션部会から酒井主査に実行委員として参加いただいた。有料参加者 88 名の 100 名が参加し、関心の高さを感じると共に、一つの学問、産業領域としての広がりと深さを感じる研究会であった。
- ・ 2013 年度については、画像処理技術について振り返り、まとめていく教科書の検討を中心に進めることとし、画像 4 学会については、連合会構想もあるので、そこでの検討に合わせ、研究会の企画開催に向け参画していく。

5) 画像技術用語部会

- ・ 「画像技術用語集」の改訂に向け、現行用語の改訂作業を中心に活動した。
- ・ 過去 6 年間の学会誌掲載論文を中心に、新規掲載用語候補の抽出を行った。
- ・ Web 版の公開が決定し、2013 年 3 月の公開に向け準備を進めている。
- ・ 一般書籍としての出版を軸に、紙媒体による出版の形態を検討中である。

6) インクジェット技術部会

- ・ 定例部会を 8 回開催した。
- ・ 技術研究会『Ink Jet as NO.1?』～インクジェットはプリンティングの覇者になれるか～を開催した。他のプリンティング技術に比べ多様な応用分野への高いポテンシャルを持ったインクジェット技術は、特長を活かして応用領域を拡大[Expansion]している。また、技術的課題に取り組み、プリンティング技術におけるポジションをより強固にしようと進化し、他のプリンティング技術が圧倒的な強みを持つ市場にも果敢に挑戦[Challenge]を続けている。今回の技術研究会ではこのような取り組みが結実し、果たしてインクジェット技術がプリンティング技術の覇者となり得るのか、覇者になるためにはまだ多くの課題が残されているのか、それはどのようなものか、改めて考えてみた。参加人数(講演者、実行委員除く)は 114 名であった。
- ・ ICJ2012 で「インクジェット技術の進化を考える」をテーマに WS を開催した。有料参加者 43 名、部会委員含め総数 53 名と非常に好評であった(キャンセル待ちあり)。Drupa に出展された印刷向けインクジェットシステムや液体现像方式を取り上げ、今後の技術進化について議論した。
- ・ 合宿研修会として、福岡工業大学松尾研究室を訪問した(2011 年 12 月 21 日～22 日)。研究テーマが全てインクジェットである珍しい研究室である。研究内容の紹介、実験室見学の後、研究室からの依頼で部会から「次世代インクジェット(プリンティング)技術の展望」をプレゼン。訪問後、先生と学生で懇親会を開催。日本画像学会への加入と発表を依頼した。
- ・ 2012 年度の技術研究会は 9 月 20 日(金)を予定する。
- ・ 書籍「インクジェット」の第 4 刷が 7 月に増刷された。

7) 電子ペーパー部会

- 2012年10月31日-11月1日,2010年に続いて第2回目となる電子ペーパー国際会議 ISEP (International Symposium on Electronic Paper 2012)を FPD 展とタイアップしてパシフィコ横浜でデジタルファブ리케이션部会と共同開催した。
- ICJ2012 でワークショップを実施した。「電子ペーパーのこれまでの10年, これからの10年」と題して, 3名の講師に講演 (コクヨ・齋藤様, 東海大・面谷先生, 東芝・雨宮様) いただいたあと, グループ討議を実施した。
- 定例部会8回実施。
- 合宿を2012年10月26日(金)~27日(土)に実施した。1日目は, 酸化物半導体 TFT を用いたフレキシブルエレクトロニクスを研究している高知工科大学の古田研究室を見学させていただき, 2日目は今後の部会課題として何にするかを討議した。

8) サーマル記録技術部会

- 昨年同様に, 技術委員会総会開催時の他に年次大会での開催と, SONY 様の品川本社にてショールーム「The Square」の見学と合わせた持ち回り部会1回の計3回実施した。
- 2012年度は研究会を開催した。
2012年7月4日(水)午後日本印刷会館にて, サーマル記録技術部会主催による本年度第1回の技術研究会として開催。当日は53名(会員35名, 非会員11名, 学生1名, 講師6名)の皆様にご出席いただき, 活発な質疑応答, 議論が交わされた。
今回は『ここにもつかわれているサーマル記録』というテーマにて, 医療分野, POS 市場, プリンテッドエレクトロニクス, フォト市場, セキュリティー印刷に関する5件のご講演をいただき, 総括としてパネルディスカッションを行い, サーマル記録の多様性の振り返りとその本質について議論がなされた。パネルディスカッションでは, サーマル記録方式は他方式に比べ, シンプル, メンテフリー, 小型, 高速, 高耐久等々の特長があること。またこの特長は, 記録媒体(感熱紙), 色材(インクリボン)それ自身が印刷プロセスの機能を有しており, それらを搬送し転写する機能と完全に機能分離できている方式であるところに由来していると総括された。

9) イメージング材料部会

本部会は前身の「感光体における光・物理現象に関する研究会」からスタートした第9部会発足当初から, 当学会のメイン材料分野である感光体に関する研究が減少し, 実用化に向けた長寿化が開発の中心に移行して行った。そのため当研究会としてイメージング材料としての感光体材料研究の総括に固守し, 2008.12に第2部会と合同で開催した画像学会シンポジウム第2部として「感光体材料開発の現状とその新規電子デバイスへの展開」と題するシンポジウムを開催し, 感光体材料としての総括を行った後, 結果として部会, 研究会の企画運営等ができていないが, 第9部会のミッションにもとづく新しい方向の模索を今後も継続する。

10) シミュレーション技術部会

- イメージングプロセスに関わるシミュレーション技術の動向探索と啓蒙活動を通して, シミュレーション技術の活性化を目指すことを部会ミッションとして活動を進め, 部会を7回開催した。
- シミュレーション実習の講習プロモーションビデオ(約1分)を作成し, 学会ホームページと YouTube 上で公開。非常にクオリティの高いビデオで好評。2013年度版も作成予定。
- 2012年夏の第73回技術講習会(7/12)にてシミュレーション実習を実施。参加者11名。累

計 120 人の実習満足度は 95%以上。

- ・ シミュレーション技術のニーズ把握の目的で、2012 年秋頃に無料シンポジウムを開催を検討。技術部会、事務局等に相談した結果、部会としての開催は見送ることに決定。早稲田川本研究室主催で 11 月 9 日、12 月 14 日の 2 回開催となった。部会としては直接の運営は行わないが、発表者選定や社内アナウンス等で協力。第一回：参加者 37 名+ α (川本研)。第二回：参加者 33 名+ α (川本研)。

11) デジタルファブ리케이션部会

- ・ 2012 年 9 月 6 日-8 日に東京大学で開催された ICFPE2012 (2012 International Conference on Flexible and Printed Electronics) で、セッション 5: “Digital Fabrication for flexible and printed electronics” を企画担当した。セッションは Invited 2 件、一般口頭発表 4 件、ポスター発表 7 件で構成された。
- ・ 2012 年 10 月 31 日-11 月 1 日にパシフィコ横浜で開催された ISEP2012 電子ペーパー国際シンポジウムを電子ペーパー部会との合同で企画運営を行った。
- ・ 2012 年 12 月 10 日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された画像 4 学会合同研究会『画像形成技術が拓くフレキシブル・プリンテッドエレクトロニクス』の運営に参加した。
- ・ 2012 年 9 月 9 日 - 13 日にケベックで開催された IS&T DF2012 にて Committee とセッション運営に参加した。

12) 画像感性部会

- ・ 「感性」に係る研究会開催のために、部会員の興味対象を集約する作業(部会)を実施した。その結果、部会メンバーが持ち寄った情報から、「目」でとらえた画像が「脳」でどう処理をされて「認識」されるか、そのプロセスを理解することが「感性」理解のキーであることを確認した。一方、上記プロセスの理解が部会メンバーに非常に不足しており、部会メンバーを中心とした勉強会を実施することで一致し、講師候補のリストアップを進めている。現在、複数の講師に打診しているが難航しており、引き続き、勉強会開催への努力を継続していく。

(10) コンファレンス委員会 委員長 阿部隆夫 (信州大学)

・ コンファレンス委員会は次の構成で活動した。委員長：阿部隆夫(信州大)、委員：大西 勝(ミマキエンジニアリング)、竹内達夫 (キヤノン)、中山喜萬 (大阪大)、平倉浩治(HIRAK)、山崎弘 (コニカミノルタ)。

・ 2012 年 6 月 11 日(月), 12 日(火), 13 日(水)の 3 日間、東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールにおいて “Imaging Conference JAPAN 2012” [日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会 (第 109 回)] を開催した。本会では富士ゼロックス (株) が幹事会社として運営に当たった。実行委員長は鶴岡亮一氏、同副委員長は上原康博氏と中山信行氏。

・ 2013 年 6 月 12 日(水), 13 日(木), 14 日(金)の 3 日間、東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールで開催する予定の “Imaging Conference JAPAN 2013” [日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会 (第 111 回)] は (株) リコーに幹事をお願いした。実行委員会が組織され、開催に向けた準備を遂行中である(実行委員長：村山久夫氏、同副委員長：長山智男氏および一宮孝司氏)。

・2014年度開催予定の“Imaging Conference JAPAN 2014”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第113回)]の幹事会社をコニカミノルタにお願いした。

・画像に関する学術・技術国際会議を日本で開催するための企画推進委員会を組織した。メンバーは、阿部隆夫(コンファレンス委員会委員長;信州大)、大西 勝(ミマキエンジニアリング)、面谷 信(東海大)、竹内達夫(キヤノン)、内藤裕義(大阪府大)、長山智男(リコー)、服部好弘(コニカミノルタ BT)、半那純一(東工大)、深瀬康司(日本画像学会参与)、緒方信康(日本画像学会事務局)。委員会案を作成し、理事会で実現に向けて検討中。①スコープ;5 技術分野を設定し、内容の案を作成した。②開催時期;2015年、詳細未定。ICJ2015を含む形か。③会議の名称;International Conference on Advanced Imaging、略称はICAI(イカイ)。④学会間開催協力関係;2013年4月25日に、当学会の発議のもとに映像情報メディア学会、画像電子学会、日本印刷学会、日本写真学会の関係者が霞会館に集まり、第1回目の企画会議を開催した。当学会から趣旨説明をした後、全学会が協力して国際会議を実施することについて合意し、さらに、開催日(2015年6月)、場所(東京)、予算規模、運営体制、日程計画などについて話し合った。本件は、IS&Tにも協力の呼びかけを実施し、協力していただけることを確認済み。⑤当学会側の運営担当企業としてキヤノンにお願いした(他学会との共催を予定しているので会議全体の幹事会社という立場ではない)。

(11) 財務委員会報告 委員長 辰巳節次(富士フイルム)

・2011年度収支決算および2012年度予算の作成を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会の決議を経て、総会にて2011年度決算および2012年度予算の承認を得た。

・2012年度予算は、次のような方針で立案し、理事会の承認を得た。通常収支として収支均衡を目指す。収入/支出とも景気の悪化とここ数年の実績を考慮して決める。通常外支出として新規出版物作成費、用語集改訂費、国際学会準備費を計上する。

・会計処理規程に則って2012年度半期決算を行い、会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会に報告し承認を得た。

・年度末の状況としては、講習会の参加者減少による収入減、試験標準品頒布収入増、新規出版/用語集改訂の見送りによる支出減、国際学会開催の1年延期による準備費支出減等があり、事業活動収支は当初予算に対して約240万円の黒字、事業活動収支絶対額も約150万円の黒字となった。

(12) 企画委員会 委員長 酒井真理(東京大学)

● イメージングカフェの企画および運営

個人会員向け新サービスとして、2011年2月に実施が始まった交流空間『イメージングカフェ』を、2012年度も引き続き企画および運営を担当し、月1回の開催を目標に取り組んだ。

本年度は、アンケート結果で要望が高かった参加者同士の交流を深める機会を設けるため、夏の納涼祭スペシャルと冬の年末スペシャルとして、第一部講演会に続き第二部懇親会を合わせた特別企画を実施した。また、通常企画でも希望者による二次会を設け、講師を囲んでより深く交流が行えるように配慮した。

一方、東京のみの開催であった『イメージングカフェ』を、より多くの会員にサービス提供するため、関西委員会の企画・運営で、イメージングカフェ関西として大阪で初開催した。

本年度の『イメージングカフェ』開催要項および開催内容は以下の通りである。

- 会場 恵比寿カルフル、東工大蔵前会館（第14回、第18回）
パナソニック松心会館（関西第1回）
- 参加費（通常） 1,000円（1ドリンク付き）
- 参加資格 原則として日本画像学会個人会員（賛助会員は含まず）
1週間前に空席がある場合は個人会員外（非学会員も含む）の参加を受け付ける
- 開催内容
 - 第11回 2012年4月6日 新聞印刷技術の変遷とこれから
・・・・・・・・・・・・・・・・藤尾 昇（東京機械製作所）
 - 第12回 2012年5月18日 3Dプリンターとは？背景、現状と将来の可能性
・・小林 広美（スリーディー・システムズ・ジャパン）
 - 第13回 2012年6月29日 今、プリントドエレクトロニクスで取り組むべき課題
・・・・・・・・・・・・・・・・鎌田 俊英（産業技術総合研究所）
 - 第14回 2012年8月3日 プリンタ屋が印刷業界で学んだこと
・・・・・・・・・・・・・・・・松木 眞（画像電子学会フェロー）
 - 第15回 2012年9月7日 導電性機能材料のイノベーションー無類の透明導電材料と
持続的エネルギー変換材料への展開
・・・・・・・・・・・・・・・・星野 勝義（千葉大学大学院）
 - 第16回 2012年10月12日 電子書籍出版システム(Espresso Book Machine)
その現状と将来展望・・・・望月 雅之（富士ゼロックス）
 - 第17回 2012年11月9日 Amazon.com Before and After
～アマゾンが世にもたらしたものとそのDNA
・・・・・・・・・・・・・・・・酒井 孝典（相談ネットコム代表）
 - 第18回 2012年12月7日 イメージング技術 2012 徹底討論
・・・・・・・・・・・・・・・・服部 好弘（ユニカミノルタ BT）
・・・・・・・・・・・・・・・・中島 一浩（キヤノン）
・・・・・・・・・・・・・・・・酒井 真理（東京大学）
 - 第19回 2013年2月1日 転写 Sim. 開発 -過去から未来-
電子写真の複雑プロセスへの挑戦
・・・・・・・・・・・・・・・・門永 雅史（リコー）
 - 第20回 2013年3月8日 探査機・人工衛星で撮影された画像がユーザに届くまで
～「はやぶさ」を支えた画像処理技術～
・・・・・・・・・・・・・・・・丸家 誠（日本電気）
- 関西イメージングカフェ
 - 第1回 2013年2月8日 プレゼンテーションの変遷を考える・・・・横山 正明（大阪大学）
- 開催結果
第11回から第18回までの合計8回の開催で、延べ会員101名、非会員42名の参加者を得た（講師・企画委員を含まず）。

● ICJ2012 でのワークショップの企画

企画委員会として ICJ2012 のワークショップのテーマの取りまとめを担当した。

(13) 広報委員会 委員長 長山智男 (リコー)

- ・ 広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ (URL : <http://www.isj-imaging.org/isj.html>) の継続的な管理運営を行った。1997 年に開設して以来、540,000 件を超えるアクセス数となっている (2013 年 2 月現在)。
- ・ 学会事務局の運営業務 IT 化活動として、事務局および運営委員会との連携により、昨年度導入した会員データの web 管理化 (入退会事務処理、会費支払い確認等の自動化など) のシステムを軸とした IT 化の拡大として、年次大会の講演登録、予稿原稿投稿や事前参加登録処理等の各種運営業務の IT 化を、実行委員会の協力の元で確立した。
- ・ 広報委員会のミッションの一つとして学会活性化が加えられたことから、活動委員の増強を実施し、次年度以降における新たな会員サービス提供の方針を立て、施策を立案中である。

(14) ビジョン委員会 委員長 竹内達夫 (キヤノン)

本委員会は 2010 年役員研修会において「今後の学会の進むべき方向性、プレゼンスの向上運営の活性化」を議論する場として、学会会長および会長経験者の方々ならびに技術委員長、カンファレンス委員長をその委員として活動を開始した。

2011 年の秋からは具体的なビジョンの構築とミッションを練ることを目的とし学会理事より池田理事、佐野理事、神野理事に委員長が加わる形で議論を行い、全 10 回の会合ならびに合宿を経て 2012 年 10 月に骨子の作成を完了した。

また、日本画像学会のビジョン提案として 2012 年 ICJ2012 においてワークショップも開催し会員のみならずからの御意見を戴くという場も開催、さらに、このワークショップにおいて学会ビジョンの活動として学会技術委員会より技術ロードマップの報告も合わせて行った。

本活動は 2013 年総会において「日本画像学会ビジョン」というかたちで正式発表する予定である。

(15) 事業委員会 委員長 大橋豊史 (三菱化学)

- ・ 標準キャリアとテストチャートの頒布は学会財政上、着実な収益をもたらしており、出版では「デジタルプリンタ技術」も増刷が続いている。
 - ・ 標準キャリア (担当：トナー技術部会) に関しては、新規標準品頒布はなく、頒布累計数では N-01 が全体の 56%、P-01 が全体の 27% を占めている。
 - ・ テストチャート (担当：画像評価技術部会) に関しては、新規学会チャート頒布はなく、従来のテストチャートの今年度頒布数では NO.4 が全体の 47%、NO.3 が 46% で殆どをこの 2 種類が占めている。
 - ・ 2008 年 6 月に刊行した「デジタルプリンタ技術」シリーズ 4 巻では①電子写真と③インクジェットがいずれも 4 刷となった。
- 4 巻の累計実売数はつぎのとおりである。(提供：東京電機大学出版局 2012 年 12 月現在)

- ① 電子写真 4刷 3106部
- ② 電子ペーパー 1刷 1729部
- ③ インクジェット 4刷 2976部
- ④ ケミカルトナー 1刷 1751部

- ・「デジタルプリンタ技術」シリーズの続刊として刊行を予定していた「有機エレクトロニクス」と「インクジェット応用」の2巻は次年度に刊行予定である。
- ・「技術用語集改訂版」のWeb公開などは次年度に公開予定である。

[協賛依頼]

○2012年

- ・6/18, 19, 22 “色材協会関係コロイド化学セミナー
「やさしい界面活性剤、化粧品、香りの話しと界面活性剤の研究最前線」”
“東京塗料会館” 色材協会
- ・6/28-29 “第20回品質工学研究発表会「品質工学の果たすべき役割を探る」”
“きゅりあん” 品質工学会
- ・7/11 “色材分散講座－分散の基礎と応用－”
“大阪科学技術センター” 色材協会関西支部
- ・7/12 “2012年度P&I研究会勉強会「印刷技術が貢献する医療・バイオ分野」”
“ディアイシービル” 日本印刷学会
- ・7/27 “2012年度印刷・情報記録・表示研究基礎講座「基礎から学ぶ有機エレクトロニクス材料」”
“産業技術総合研究所” 高分子学会
- ・8/1-2 “第45回塗料講座「コーティングの基礎から実践」”
“大阪科学技術センター” 色材協会関西支部
- ・8/30-31、9/6-7 “第54回顔料入門講座「ナノ色材分散技術と省エネルギー」”
“千葉工業大学” 色材協会
- ・9/6-8 “フレキシブル・プリンテッド・エレクトロニクス国際会議2012
(2012 International Conference on Flexible and Printed Electronics
<ICFPE2012>)” “東京大学” ICFPE2012実行委員会
- ・9/13-14 第36回静電気学会全国大会 “八戸工業大学” 静電気学会
- ・9/9-13 NIP28, DF2012 “Quebec City” IS&T
- ・10/19 “2012年日本印刷学会秋期セミナー「印刷業界のパラダイムシフトと生き残り戦略」”
“日本印刷会館” 日本印刷学会
- ・10/31-11/2 FPD International 2012 “パシフィコ横浜” 日経BP社
- ・11/2 “平成24年度オフセット印刷技術研究会例会
「中堅技術者のためのオフセット印刷とデジタル印刷の最新動向」”
“日本印刷会館” 日本印刷学会
- ・11/14 “第37回顔料物性講座「環境を改善する機能性色材」”
“東京塗料会館” 色材協会
- ・11/22 “第20回カメラ技術セミナー”

- ・ 11/22 “国立オリンピック記念青少年総合センター” 日本写真学会
“色材講演会「色材における表面と界面の評価・制御・機能化」”
“大阪科学技術センター” 色材協会関西支部
- ・ 12/4-7 “IDW/AD ’12” “京都国際会館” 映像情報メディア/学会 SID 日本支部
- ・ 12/6-7 “第9回色材 I T 講座「成長し続けるインクジェット技術」”
“日本大学理工学部・駿河台” 色材協会
- ・ 12/15 “第46回光学五学会関西支部連合講演会「光と医療」”
“大阪市立大学文化交流センター” 日本光学会
- ・ 12/17 “第21回微粒化シンポジウム”
“東京工業大学・大岡山キャンパス” 日本液体微粒化学会

○ 2 0 1 3 年

- ・ 1/18 “第22回顔料分散講座” “東京塗料会館” 色材協会
- ・ 2/4-5 “2012年度印刷・情報記録・表示研究会講座”
“産業技術総合研究所” 高分子学会 印刷・情報記録・表示研究会
- ・ 2/6-8 “page2013「拡大！コミュニケーション支援ビジネス」”
“サンシャインシティ” 日本印刷技術協会
- ・ 3/1-2 “薄膜トランジスタ国際会議 ITC2013”
“東京大学 弥生講堂” ITC2013 組織委員会
- ・ 3/7-8 “シンポジウム「モバイル’13」”
“青山学院大学 青山キャンパス” モバイル学会

(16) 運営委員会 委員長 中居仁司 (ブラザー工業)

- ・ 学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。
- ・ この他に運営委員会が主導した2012年度の活動として、次の3点がある。

(1) 副会長の選任

- ・ 前述(6)「理事会」にも記したが、11年度から理事会で審議してきた副会長ポストの新設と副会長の選任を実施した。まず12年度第1回理事会で副会長選考委員会を立ち上げ、酒井理事が委員長を務めることが承認され、選考委員会から全役員に副会長の公募をかけた後、2012年度第3回理事会で面谷理事、竹内理事の2名の候補者を副会長として選任した。これに伴い役員選任規程も改訂した。副会長は会長の補佐を行い任期は会長と連動する。なお、副会長は次期会長候補という条件は必須とはしないこととした。

(2) 執行部会の発足

- ・ 第3回理事会で、正副会長と運営委員長が執行部を形成し、学会運営に関する諸案件の迅速な執行を行うこととなった。執行部会は2013年3月末までに4回開催し、主な検討案件は次のとおりである。
 - ・ 選奨関係：フェロー制度の新設と技術研究賞の新設を検討（原案を2012年度第6回理事会に諮り承認。具体化を選奨委員会で検討中）及び、会長特賞、名誉会員の推薦
 - ・ 評議員会の開催方法、維持会員との双方向対話の促進方策
 - ・ 学会ビジョンの完成に向けたアクションプラン

- ・関係他学会との連携の進め方
- ・執行部会での重要な決定事項は全て理事会に諮った後に実行することが前提である。

(3) 役員研修会

- ・2012年7月30日(月)、富士ゼロックス株式会社みなどみらい事業所を借用し、役員研修会として昨年に引き続き次の4テーマに分れて検討を行った。

- ① 学会ビジョン委員会
- ② 学会活性化、会員増加の戦略
- ③ 画像関連他学会との連携のあり方
- ④ 技術委員会の在り方

- ・役員研修会当日のラップアップ、及び2012年10月11日第3回理事会でその結果が承認され、夫々該当する委員会で活動を展開中である。

① 学会ビジョン

- ・ビジョン委員会竹内委員長を中心に ICJ2012 ワークショップでの学会ビジョンに関する議論を受け、当学会の主要技術領域の設定、ビジョン案の精査、各技術部会が策定した技術ロードマップを検討した。その後2012年度理事会での検討結果を経て、2013年度定時総会で公開を予定している。

② 学会活性化・会員増加の戦略

- ・長山広報委員長を中心に、広報活動による会員ベースの充実を検討した。より便利で親しみやすい学会広報活動方策、広報委員会の体制整備(委員の増員)、発信情報のコンテンツの選択、会員情報の有効活用、等について検討した。進捗状況を2013年度定時総会でも報告する予定である。

③ 画像関連他学会との連携のあり方

- ・半那会長を中心に、国内の画像関連4学会(画像電子学会、日本写真学会、日本印刷学会、日本画像学会)の連携について検討を行った。目的は、画像関連科学・技術の深化と展開、各学会の継続的かつ発展的な活動基盤の構築である。役員研修会の後、本学会半那会長から、画像4学会間での連携の具体的な方策を詰めるため、画像4学会連合会(仮称)の提案がされ、各学会から前向きな回答をえて準備に入りつつある。2013年度定時総会では冒頭の会長挨拶で本件に触れる予定である。

④ 技術委員会の在り方

- ・面谷技術委員長、木村副技術委員長を中心に、学会ビジョンの各技術部会活動への反映、活動が低調な部会の課題整理と活性化策、等を検討した。その後の技術部会主査会議等の結果も含め2013年度定時総会で報告の予定である。

(17) 国際交流委員会 委員長 半那純一 (東京工業大学)

- ・米国 画像学会主催、本学会共催の NIP28 International Conference on Digital Printing Technologies (NIP28)、Digital Fabrication (DF2012) (2012年9月9日~9月13日、カナダ Quebec City) の開催に協力した。
- ・国際交流の一環として編集委員会と協力し、韓国および中国 画像学会との会誌 (Journal of The Korean Society for Imaging Science & Technology、Imaging Science and Photochemistry) 目次の相互掲載を開始した。

- ・アジア、オセアニア地域における画像関連学会との交流をはかる準備のため、各国における学会の実情の調査を開始した。

(18) 選奨委員会 委員長 内藤裕義 (大阪府立大学)

- ・選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、および、日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。
- ・本学会で 2012 年度下期から新設された執行部会から理事会への提案を受け、来年度から技術研究賞とフェロー制度の新設を検討し、本学会選奨規定の改訂を理事会に提案、2 度におわたる審議を経て 2013 年 3 月度に承認された。詳しい規定は本学会ホームページの選奨規程に掲載した。

(19) 関西委員会 委員長 北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

関西シンポジウム 2012

2012 年 5 月 11 日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375 番地)にて、2012 年度関西シンポジウムを開催した。「技術革新はどこからうまれる」－発明者に聞くイノベーションのカギ－というテーマのもと、特許出願動向と各社を代表する技術イノベーションを解説する 7 件の講演と、パネルディスカッションを行った。岩田委員の司会の下、個人や、組織、オープンイノベーションなどに分けて議論を進め、現場の提案を掘り起こす制度や仕組みのご紹介などもあり、参加された皆様には有意義な議論があった(参加者 77 名、前年 104 名)。

【プログラム】

- ・特許出願技術動向調査の概要 山本 一 (特許庁)
- ・エコスイノベーション 小澤義夫(京セラドキュメントソリューションズ)
- ・トナー材料の変遷 丸田将幸(花王)
- ・低温定着トナーEA-Eco 研究開発の背景と将来展望 青木孝義(富士ゼロックス)
- ・コニカミノルタの現像システム 岡建樹(コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社)
- ・産学連携による健康調理器ヘルシオの開発 井上隆(大阪府立大学)
- ・QSU 技術による省エネ定着 岸和人(リコー)
- ・フルカラークリーナーレスシステムの技術展開 竹田篤志(キヤノン)

● パネルディスカッション

座長：岩田将和 (三洋化成) パネラー：講演者のみなさん

「技術革新はどこからうまれる」－発明者に聞くイノベーションのカギ－

- ・日本画像学会 関西委員会 委員長挨拶 北岡 義隆(パナソニックシステムネットワークス株式会社)

第 74 回 技術講習会

2012 年 11 月 29 日(木)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375 番地)にて、関西委員会企画運営による第 74 回技術講習会「カラーイメージングの基礎と実際－これを聞けば色がわかる－」を開催した。色彩工学の基礎と、色材、印刷における色の管理や計測技術と装置について講

義の後に、機器メーカーの方々に計測機器展示と実演を行って頂いた(参加者 26 名、前年 51 名)。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 金本誠一(ブラザー工業株式会社)
- 1. 若手技術者への色彩全般の基礎的講座 矢口博久(千葉大学)
- 2. ペーパー画像における色材 橋野宏樹(山陽色素株式会社)
- 3. 印刷における色の管理や工夫 亀井義人(凸版印刷株式会社)
- 4. 色を計る 山本信次(コニカミノルタオプティックス株式会社)
- 5. 粉体の帯電測定技術 東尾 順平(トレック・ジャパン株式会社)
- 6. 光沢計の紹介 中西保之(株式会社堀場製作所)
- 7. 濃度計の原理と応用 野村大介(伊原電子工業)
- ・講演各社による技術展示
- ・日本画像学会 関西委員会 委員長挨拶 北岡 義隆(パナソニックシステムネットワークス株式会社)

Imaging Conference JAPAN 2012 Fall Meeting (第 110 回 研究 討 論 会)

2012 年 11 月 30 日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375 番地)にて、Imaging Conference Japan 2012 Fall Meeting を開催した。技術賞受賞記念講演 3 件、一般口頭発表 8 件、ポスターセッション 10 件の発表があった。研究討論会への参加者は 61 名(前年 91 名)であった。

今回も、一つのテーマを少人数で深く議論をするワークショップを併設した。山崎実行委員(花王株式会社)が司会を務め、「画像評価技術の現状と今後」をテーマに、技術講習会の画像評価機器メーカー講師の方々と、有料参加者 7 名とで計測技術の進むべき方向について議論を深めた。

プログラムは本稿後半に記載(付録 2)。

(20) 特別講演会

2012 年 3 月 7 日 評議員会の後、産業技術総合研究所フレキシブルエレクトロニクス研究センターのセンター長 鎌田 俊英氏による『次世代フレキシブルデバイスに向けたプリントドエレクトロニクス技術の概要』の特別講演会を開催した。

(21) 技術研究会

● 2012 年 7 月 4 日(水) 日本印刷会館にてサーマル記録技術部会企画の 2012 年度第 1 回日本画像学会技術研究会(通算第 114 回)を開催した。参加者 53 名(会員: 35, 非会員: 11, 学生: 1)。

テーマ『ここにもつかわれているサーマル記録』

- ・医療分野で活躍するサーマル記録
「テーブルトップ型医療用ドライサーマルイメージャーの開発」
谷口 敏夫 氏、田中 哲哉 氏 (富士フイルム)
- ・アジア POS 市場で活躍するサーマル記録
「中国市場におけるサーマルプリンタアプリケーション」
佐藤 忠義 氏 (ローム)
- ・プリントドエレクトロニクスで活躍するサーマル記録
「レーザ熱転写法による導電性微細配線形成」
吉田 勝弘 氏 (ゼネラル)

- ・フォト市場で活躍するサーマル記録
「フォト市場で活躍するサーマル記録」
開田 英正 氏 (大日本印刷)
- ・カード、免許証、セキュリティー印刷で活躍するサーマル記録
「カード、セキュリティー分野へのサーマル技術の応用展開」
植田 健治 氏 (大日本印刷)
- ・総括：パネルディスカッション (パネラー：講演者、サーマル記録技術部会委員 五十嵐 氏)
サーマル記録の多様性の振り返りとその本質について議論がなされました。

● 2012年9月28日(金) 日本化学会 化学会館ホール(東京都千代田区神田駿河台1-5)にて
インクジェット技術部会企画の2012年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第115回)を
開催した。参加者114名(会員:83, 非会員:30, 学生:1)。

テーマ 『Ink Jet as NO.1?』 ~インクジェットはプリンティングの覇者になれるか~
講演テーマ, 講演者は以下のとおり。

[Expansion]

1. インクジェット・ラベル・プリンティング :北原 強 (セイコーエプソン)
2. 次世代高速捺染プリンター NassengerPRO 1000 :前川原 稔 (コニカミノルタ IJ)
3. インクジェットプリンタとインクの特長と広がるワイドフォーマットや産業用途への応用
:大西 勝 (ミマキエンジニアリング)
4. ライン型高速インクジェットプリンタの進化と導入市場について
:岡田 富行 (理想科学工業)

[Challenge]

5. デジタル印刷向け色材について :山岡 徹 (BASF ジャパン)
6. 多様化する印刷物の脱墨性について ~インクジェット印刷物の脱墨性~
:細川泰孝 (ライオン)
7. 電子写真技術とインクジェット技術 :深瀬 康司 (日本画像学会, 元富士ゼロックス)

● 2012年10月19日(金) 虎の門『発明会館』(東京都港区虎の門2-9-14)において、トナー技術部会企画で2012年度第3回日本画像学会技術研究会(通算第116回)を開催した。参加者は85名(講師、委員、報道は除外)であった。

テーマ 『深化する解析技術・進化するトナー技術』

【プログラム】

深化する解析技術

- | | | |
|-------------------------|--------------|-------|
| ①トナー摩擦帯電の基礎モデル | : (元) 日本工業大学 | 中村 洋一 |
| ②粉体の摩擦帯電機構 | : 静岡県立大学 | 坂口 真人 |
| ③標準キャリアを用いたトナー帯電特性の評価 | : トナー技術部会 | 多田 達也 |
| ④静電気力顕微鏡を用いたトナーの帯電状態の測定 | : トレック・ジャパン | 上原 利夫 |
| ⑤トナー取扱いに係る産業保健調査 | : 富士ゼロックス | 原田 祐二 |

進化するトナー技術

- | | | |
|-------------------------|-----------|-------|
| ⑥モノクロ用 EA-Eco トナーとグロス制御 | : 富士ゼロックス | 井上 敏司 |
| ⑦新たな高機能シリカ系外添剤 | : 日本アエロジル | 内藤 直弘 |

●2012年10月31日(水)午後－11月1日(木) パシフィコ横浜・会議センターにて、電子ペーパー部会とデジタルファブ리케이션部会の共同企画でISEP2012 (International Symposium on Electronic Paper 2012)を開催した。電子ペーパーの国際会議として2年前のISEP2010に続き第二回目となる。参加者は、会員・維持会員34名、非会員20名、学生12名の計66名(うち海外2名)

【プログラム】

1st Day October 31, Wednesday

13:00- Registration

13:50-14:00 Opening Remark: M. Omodani (Tokai Univ.) Chair: T. Kawase (Nippon Shokubai)

Time	Title	Speaker	Affiliation
< Session 1 : Color I > Session Chairs : A. Suzuki (Chiba Univ.) , H. Arisawa (Fuji Xerox)			
14:00-14:35	C-1. Bistable Electrowetting Displays with Superior Optical Performance	Karlheinz Blankenbach	Pforzheim Univ. (DE)
14:35-15:10	C-2. Color Electronic Paper based on Multi-layered Electrochromic Display Technology	Yoshinori Okada	Ricoh (JPN)
15:10-15:45	C-3. mirasol® -- Revolutionary color display technology for diverse mobile applications	Bill Cummings	Qualcomm (USA)
15:45-16:15	Demonstration (C-3, C-4, C-5) and Coffee Break		
< Session 2 : Color II > Session Chairs : T. Kitamura (Chiba Univ.) , I. Amemiya (Toshiba)			
16:15-16:50	C-4. Presenting a 10.7" Colour Electronic Flexible Paper Display Fabricated using a Qualified Manufacturing Process	James D. Watts	Plastic Logic (UK)
16:50-17:25	C-5. Novel Color Electrophoretic E-Paper using Independently Movable Colored Particles	Naoki Hiji	Fuji Xerox (JPN)

2nd Day November 1, Thursday

9:30- Registration

Time	Title	Speaker	Affiliation
< Session 3 : Applications > Session Chairs : T. Kawase (Nippon Shokubai), Y. Hotta (Ricoh)			
10:00-10:35	A-1. Advancements in Microencapsulated Electrophoretic Display Technology	CC Tsai	E Ink Holdings (TW)
10:35-11:10	A-2. High Resolution E-Paper System Platform	Satoshi Nebashi	Seiko Epson (JPN)
11:10-11:45	A-3. EPD Applications Beyond e-Reading	Hidetoshi Heeday Danjo	Toppan Printing (JPN)
11:45-14:00	Lunch Break		
< Session 4 : Materials and Process I > Session Chairs :S. Maeda (Tokai Univ.), Y. Toko (Stanley Electric)			
14:00-14:35	MP-1. Material and Electro-Optical Fluid Development towards Colour Filter Free, Colour Electrophoretic Displays	Ashley Smith	Merck Chemicals (UK)
14:35-15:10	MP-2. Preparation of Colored Polymer Janus Particles for Electric Paper Applications	Hiroshi Yabu	Tohoku Univ. (JPN)
15:10-15:40	Demonstration (A-2, MP-1, MP-2, MP-4) and Coffee Break		
< Session 5 : Materials and Process II > Session Chairs : M. Fujii (Fuji Xerox) , S. Sakai (Tokyo Univ.)			
15:40-16:15	MP-3. The Recent Development Progress of Transparent Electrowetting Display	Wei-yuan Cheng	ITRI (TW)
16:15-16:50	MP-4. Double-walled Carbon Nanotube Transparent Conductive Film for Flexible EPD	Takashi Oi	Toray Industries (JPN)
16:50-17:25	MP-5. Roll to Roll Production by Laser for Printed Electronics	Shuichi Dejima	Hikali (JPN)

17:25-17:30 Closing Remark: T. Kitamura (Chiba Univ.)

● 2012年12月10日(月)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)にて、画像4学会合同研究会(共催(一社)日本印刷学会、(社)日本写真学会、(一社)画像電子学会、(一社)日本画像学会)「画像形成技術が拓くフレキシブル・プリンテッドエレクトロニクス」をテーマとした研究会を開催した。

画像4学会合同研究会の詳細は(24)の項に記載。

(22) シンポジウム

● 2012年11月22日(木) 発明会館(東京都港区虎ノ門2-9-14)にて技術委員会電子写真技術部会企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】「電子写真技術 ～発展へのキーワードと最新技術～」

【参加者】94名(会員68名、非会員7名、学生1名、報道1名、講師7名、委員10名)

【講演内容】

第1部：POD市場の今を語る

1. 小さな会社が大きく“変革”したデジタル印刷活用実践事例

～企業体質改善ツールとしてのデジタル印刷～

バリューマシーンインターナショナル 河島弘司

2. 100% Digital Production ～デジタル印刷実戦現場からの提言～

PULLCAST 岡本幸憲

3. プレゼンスを拡大して来た液体现像技術 ～drupa2012以降を予測する～

HiRAK 平倉浩治

第2部：電子写真最新技術

4. DocuPrint CP200wの小型・高画質化技術 ～本体固定式プロセスユニットとそのキー技術～

富士ゼロックス 須藤真樹

5. 第四世代Quick Start Up(QSU)技術 ～省エネ定着技術の進化～

リコー 石井賢治

6. bizhub PRESS C8000の高画質技術 ～現像プロセスを中心にその設計思想について～

コニカミノルタビジネステクノロジーズ 板垣整子

7. 両面高生産／高品位を追求したVarioPrint搭載技術

～GeminiテクノロジーからheatXchangeテクノロジーまで～

キヤノン 平野 富

● 関西シンポジウムについては(19)関西委員会の項に記載

(23) 技術講習会開催報告 事業委員長 大橋 豊史 (三菱化学)

① 第73回技術講習会

・2012年7月12日(木)、13日(金)の両日、学術総合センター(東京千代田区)にて、第73回技術講習会を開催した。今回はサブタイトルを「スキルアップに役立つ画像技術の基礎と最新技術」とし、例年同様、これから画像技術に取り組む若手技術者に対する成長機会の提供と中堅/ベテラン技術者への最新技術動向を提供する有意義な場となることを狙いとして、各方面で活躍されている23名の講師の方をお招きして講演を頂いた。前年度と同じく、1日目に第1会場の一橋講堂にて若手技術者の方を対象とした「入門講習」を設け、これから画像技術に取り組まれる方へ基礎から分かり易く解説することで、大変分かり易く有意義との評価を頂くことができた。また、第2会場である中会議室2, 3, 4での画像機器に関連の深い話題を解説する「画像関連技術一般講習」と、例年好評の「電子写真シミュレーション実習講習」も合わせて実施した。3会場を使った初日は参加される方の多様な要望に応えることのできる内容となった。

2日目は分野を「電子写真関連講習」と「その他プリンティング技術に関する技術講習」に分け、2つの会場で開催し、より詳細な解説を最新のトピックスを交えながら講義することで、詳細な知見の習得と最新技術動向が俯瞰出来るようにプログラムを構成した。

会場内スペースを使った展示会は前年度の6社から2社減少したが、4社(富士フィルム株式会社様、株式会社フォトロン様、コニカミノルタオプティクス株式会社様、トレックジャパン株式会社様)のご参加を頂いた。

有料参加者数は92名(会員・維持会員77名、非会員11名、学生4名)で、前年度より12名の減少となった。前年度同様、30代の減少が続き、20代の参加者が全体の63%と増加。厳しい経済環境の中で若手の人材育成に絞られている感がある。アンケートでも「基礎知識の習得」目的が73%と高く、裏付けされている。また、例年までの参加者分布では経験1年以下と3~5年目で2つのピークがあったが、今回は経験1年以下の32%を最高に経験年数とともに減少する傾向となった。シミュレーション実習講習では、これまでの実習に加え、新たに応用編を追加、アンケートでも満足度95%以上と好評を得た。

2013年度は、参加者数減少に歯止めをかけるべく、基礎知識習得、さらに若手技術者の専門技術習得の場ともなれるような内容、企画を検討する必要がある。

・1日目 第1会場(一橋講堂) <入門講習>

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1. インクジェット技術入門 | 江口 裕俊 (株)リコー |
| 2. 生産設備としてのインクジェットとその評価手段 | 高橋 一義 (株)トライテック |
| 3. 電子写真における技術革新の歩み | 木村 正利 富士ゼロックス(株) |
| 4. 電子写真プロセス基礎技術入門 | 北野 賀久 富士ゼロックス(株) |
| 5. 紙の基本特性とその製造方法 | 高田 秀樹 三菱製紙(株) |

・1日目 第2会場(中会議室2・3・4) <画像一般に関わる講習>

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 6. 画像機器における環境配慮 | 酒井 幸広 コニカミノルタ
ビジネステクノロジーズ(株) |
| 7. 有機/金属ハイブリッドを用いたエレクトロクロミック表示デバイス | 樋口 昌芳 物質・材料研究機構 |
| 8. 視覚と画像 | 金子 寛彦 東京工業大学 |

9. 画像処理・認識の全自動化・最適化技術の最新動向 長尾 智晴 横浜国立大学
 10. 展示会社様 プレゼンテーション
 11. デジタルファブ리케이션と大面積エレクトロニクス 関谷 毅 東京大学

・1日目 第3会場（中会議室1） 《電子写真シミュレーション実演実習》

12. スプレッドシートによるお手軽電界計算（定常問題） 仲野 正雄 キヤノン(株)
 13. 有限差分法による定着プロセスの熱伝導計算 伊藤 朋之 富士ゼロックス(株)
 14. 理論講義 中山 信行 富士ゼロックス(株)
 15. 応用編1：電界解析 仲野 正雄 キヤノン(株)
 16. 応用編2：伝熱解析 伊藤 朋之 富士ゼロックス(株)

・2日目 第1会場（一橋講堂） <電子写真に関する技術講習>

17. 電子写真プロセスの画像安定化技術関連 丸田 貴之 (株)リコー
 18. 電子写真現像剤の基礎知識 富田 正実 (株)リコー
 19. 電子写真感光体の基礎 -動作原理と技術動向- 中村 博史 富士ゼロックス(株)
 20. 紙搬送技術概論 久住 正 (株)リコー
 21. 転写メカニズムの基礎とシミュレーション 長尾 剛次 富士ゼロックス(株)
 22. 電子写真定着技術の動向について 加藤 基 キヤノン(株)

・2日目 第2会場（中会議室2・3・4） <その他プリンティング技術に関する技術講習>

23. 感熱記録技術の基礎と最新技術動向 寺嶋 尚久 富士フィルム(株)
 24. 付加価値創出のための最新インクジェット技術 徳増 路子 大日本スクリーン製造(株)
 25. 高速度カメラを用いたインクジェット・電子写真分野の事例 鈴木 祐介 (株)フォトロン
 26. 研究開発用マテリアルプリンター 井上 斉逸 富士フィルム(株)
 27. 写真画質インクジェットプリンタのキーテクノロジー解説 角谷 繁明 セイコーエプソン(株)
 28. インクジェットインク概論 倉林 豊 キヤノン(株)
 29. 電子写真のオフセット品質への挑戦 浅野 和夫 富士ゼロックス(株)

技術講習会実行委員会

委員長： 笠間 稔（富士ゼロックス）

委員： 山崎 弘（コニカミノルタビジネステクノロジーズ）、
 水野 恒雄（水野国際特許事務所）、萬道 律雄（王子製紙）、
 吉澤 孝一（セイコーエプソン）、吉田 稔（東芝テック）、
 和田 光央（三菱化学）、黒須 久雄（リコー）、
 稲葉 繁（富士ゼロックス）、伊東 展之（キヤノン）

事業委員長： 大橋 豊史（三菱化学） 事業委員： 上原 康博（富士ゼロックス）

電子写真シミュレーション実演講習は、シミュレーション技術部会（門脇主査：リコー）との共同開催

② 第74回技術講習会は（19）関西支部の項に記載。

(24) 画像4学会合同研究会

2012年12月10日(月)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)において、四学会((一社)日本写真学会、(一社)画像電子学会、(一社)日本画像学会、(一社)日本印刷学会)共催の「画像形成技術が拓くフレキシブル・プリンテッドエレクトロニクス」をテーマとした研究会を開催した。

有料参加者88名(会員65名、非会員20名、学生3名)、講師、報道、幹事を含め100名。

テーマ 「画像形成技術が拓くフレキシブル・プリンテッドエレクトロニクス」

【応用デバイス】

1. 「塗布印刷技術を用いたフレキシブルディスプレイの開発」 ソニー 野本和正

【低温溶液プロセス適性のある材料：有機半導体】

2. 「液晶性を活用した高耐熱性とプロセス適性をあわせもつ
可溶性高移動度有機トランジスタ材料の開発」 東京工業大学 半那純一
3. 「低温塗布できる高性能有機半導体単結晶 AM-TFT」 大阪大学 竹谷純一

【低温溶液プロセス適性のある材料：無機配線材料】

4. 「プリンテッドエレクトロニクスにおける導電配線材料の現状と課題」
アルバック 小田正明
5. 「印刷法による有機基板上への銅膜形成技術について」 日立化成工業 神代 恭
6. 「プリンテッドエレクトロニクス電極基盤材料開発とその産業化に向けた取り組み」
山形大学 栗原正人

【微細画像形成技術への期待と課題】

7. 「インクジェット技術が創るデジタルパターンニングプロセス」
コニカミノルタ IJ 西 眞一
8. 「乾燥プロセスによる薄膜構造制御」 東京大学 山口由岐夫

(24) 2012年度 学会概要、役員名簿、各委員会名簿

学会概要

創立年月 1958年6月30日

事務局 東京都中野区本町2丁目9番地5号(東京工芸大学内)

会員数 個人会員 944名 (2012年度入会者数 111名、退会者数 70名)

維持会員 71社 (2012年度入会数 1社、退会数 2社)

2013年3月末現在

2012年度学会役員

◎会長

半那純一 (東京工業大学)

◎副会長

面谷 信 (東海大学)

竹内達夫 (キヤノン)

◎理事

阿部隆夫 (信州大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

◎監事

池田光弘 (三菱製紙)

神野文夫 (王子ホールディングス)

小池直正 (三菱製紙)

大西 勝 (ミマキエンジニアリング)

辰巳節次 (富士フイルム)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

大橋豊史 (三菱化学)

内藤裕義 (大阪府立大学)

◎幹事

小沢義夫 (京セラ「キュメントソリューションズ」)

中居仁司 (ブラザー工業)

前田秀一 (東海大学)

川本広行 (早稲田大学)

中山信行 (富士ゼロックス)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

中山喜萬 (大阪大学)

北久保 茂 (日本工業大学)

長山智男 (リコー)

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

西野俊夫 (シャープ)

小林範久 (千葉大学)

橋本清文 (コニカミルタテクノロジーズ)

酒井真理 (東京大学)

細矢雅弘 (東芝)

佐藤利文 (東京工芸大学)

山崎 弘 (コニカミルタビジネステクノロジー)

◎顧問

窪田 啓次郎

河村孝夫 (大阪府立大学)

高橋恭介 (東海大学)

三川 禮

小門 宏

横山正明 (大阪大学)

坂田俊文 (東海大学)

田嶋紀雄 (コニカミルタホールディングス)

高橋 通 (キヤノン)

北村孝司 (千葉大学)

平倉浩治 (HIRAK)

◎評議員 (社名五十音順)

秋山 悟 (アイメックス)

岩田将和 (三洋化成工業)

石崎雅也 (日本製紙)

森下浩延 (出光興産)

油井勇飛 (シャープ)

萩野明秀 (日本ゼオン)

山田公哉 (岩崎通信機)

小野 博 (富士ゼロックスマニファクチャリング)

小林弘道 (パウダーテック)

田口哲也 (エステー産業)

田中雅和 (住友ゴム工業)

若林勇文 (パナソニックシステムネットワークス)

宮本孝典 (エヌ・ティ・ティ・クオリス)

竹本清彦 (セイコーエプソン)

迫 康浩 (バンドー化学)

清水良浩 (王子ホールディングス)

仁科貞彦 (綜研化学)

上田彦二 (藤倉化成)

小山達也 (沖データ)

坂本 茂 (大日精化工業)

山内和海 (富士ゼロックス)

中島則夫 (沖デジタルイメージング)

武衛弘之 (DIC)

寺崎成史 (富士電機)

安松雅司 (オリエント化学工業)

研究開発センター(大日本印刷)

依田 章 (富士フイルム)

秋山孝治 (花王)

津田雅也 (大日本スクリーン製造)

田谷武久 (富士フイルムイメージングシステムズ)

山崎修一 (カシオ計算機)

小林 透 (高砂香料工業)

梅原 浩 (富士薬品工業)

太田譲二 (桂川電機)

大藤正浩 (中央合成化学)

服部康弘 (ブラザー工業)

平賀祐二	(キーテック)	百武勇人	(電子化工)	加賀紀彦	(ブリヂストン)
里村 博	(キヤノン)	高橋 潤	(東海ゴム工業)	笠原 郁	(保土ヶ谷化学工業)
石垣 亨	(キヤノン化成)	佐藤昌良	(東京機械製作所)	高村寛昭	(三菱化学)
石永博之	(キヤノンファインテック)	細矢雅弘	(東芝)	小池直正	(三菱製紙)
浅井 保	(京セラ)	笠井利博	(東芝テック)	大西 勝	(ミマキエンジニアリング)
巖島圭司	(京セラ`キュメントソリューションズ`)	佐藤伸一	(東洋インキ製造)	武藤 猛	(武藤工業)
吉田 崇	((独)国立印刷局研究所)	稲垣 潤	(東レエンジニアリング)	西田昭憲	(村田機械)
木田修二	(コニカミノルタIJ)	事務機器審査長(特許庁)		鈴木 一	(山梨電子工業)
松野尚司	(コニカミルタテクノロジーセンター)	安藤富雄	(凸版印刷)	海老 豊	(リコー)
浅井真吾	(コニカミルタビジネステクノロジー)	越村 淳	(巴川製紙所)		
風見 豊	(サカタインクス)	上原利夫	(トレックジャパン)		
加治屋浩	(サトーホールディングス)	田中章裕	(内外カーボンインキ)		
佐藤昌宏	(サムスン横浜研究所)	小澤和三	(日清製粉グループ)		

(平成25年3月末現在の登録名簿にて記載)

◎編集委員会

委員長

前田 秀一 (東海大学)

副委員長

中山信行 (富士ゼロックス)

編集幹事

鈴木弘治 (元リコー)

編集副幹事

中村一希 (千葉大学)

委員

池田光弘 (三菱製紙)

竹内達夫 (キヤノン)

長山智男 (リコー)

井嶋喜明 (パナソニックシステムネットワークス)

龍田岳一 (富士フイルム)

西野俊夫 (シャープ)

北久保 茂 (日本工業大学)

堤 眞洋 (京セラ`キュメントソリューションズ`)

美才治隆 (リコー)

木村正利 (富士ゼロックス)

内藤裕義 (大阪府立大学)

山口智貴 (ユーテック)

黒沢俊晴 (元松下電器)

永戸一志 (東芝)

山崎 弘 (コニカミルタビジネステクノロジー)

◎技術委員会

委員長

面谷 信 (東海大学)

副委員長

木村正利 (富士ゼロックス)

○画像評価技術部会

主査

伊藤哲也 (ビジネス機会・情報ビジネス産業協会)

委員

芦崎浩二 (ソニー)

今河 進 (リコー)

曾根拓郎 (リコー)

一谷修司 (コニカミルタテクノロジーセンター)

駒崎岳夫 (富士フイルムイメージングシステムズ)

山田英治 (富士フイルムイメージングシステムズ)

井出 収 (富士ゼロックス)

斎藤 恵 (キヤノン)

○電子写真技術部会

主 査

永瀬幸雄 (キヤノン)

委 員

笠井利博 (東芝テック)

中村博史 (富士ゼロックス)

松代博之 (リコー)

島田知幸 (リコー)

服部好弘 (コニカミノルタビジネステクノロジーズ)

校條 健 (キヤノン)

高山 暁 (東芝)

藤井章照 (三菱化学)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

○トナー技術部会

主 査

多田達也 (キヤノン)

委 員

上原利夫 (トレック・ジャパン)

小林弘道 (パウダーテック)

星野勝義 (千葉大学)

太田英樹 (京セラドキュメントソリューションズ)

沢山 昇 (リコー)

星野坦之 (日本工業大学)

木村正利 (富士ゼロックス)

鈴木千秋 (富士ゼロックス)

久保貴史 (花王)

原田 大輔 (クラリアント・ジャパン)

○画像処理技術部会

主 査

松木 真 (元NTTクオリス)

委 員

阿部淑人 (新潟県工業技術総合研究所)

角谷繁明 (セイコーエプソン)

蒔田 剛 (キヤノン)

石井 昭 (富士ゼロックス)

小寺宏暉 (千葉大学)

大久保 宏美 (リコー)

関沢秀和 (画像電子学会)

○画像技術用語部会

主 査

北久保茂 (日本工業大学)

委 員

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

多田達也 (キヤノン)

星野坦之 (日本工業大学)

坂谷一臣 (コニカミノルタビジネステクノロジーズ)

西村克彦 (キヤノン)

堀田吉彦 (リコー)

酒井真理 (東京大学)

野田明彦 (富士ゼロックス)

谷中一寿 (神奈川工科大学)

正道寺 勉 (日本工業大学)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

○インクジェット技術部会

主 査

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

委 員

江口裕俊 (リコー)

酒井真理 (東京大学)

朝武 敦 (コニカミノルタIJ)

大倉浩和 (三菱製紙)

高田雅之 (ブラザー工業)

中島一浩 (キヤノン)

岡田真一 (DIC)

竹本清彦 (セイコーエプソン)

○電子ペーパー部会

主 査

堀田吉彦 (リコー)

委 員

雨宮 功 (東芝)

有澤 宏 (富士ゼロックス)

植田秀昭 (ダイソー)

面谷 信 (東海大学)

川瀬健夫 (日本触媒)

北村孝司 (千葉大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

鈴木 明 (千葉大学)

鈴木 薫 (ブリヂストン)

都甲康夫 (スタンレー電気)

藤田郁夫 (三菱製紙)

前田秀一 (東海大学)

八代 徹 (リコー)

○サーマル記録技術部会

主 査

寺尾博年 (アルプス電気)

委 員

朝倉太郎 (東芝ホクト電子)

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

大嶋克之 (大日本印刷)

寺嶋尚久 (富士フイルム)

中西雅寿 (ローム)

眞島 修 (マジマ研究所)

間野 茂 (コニカミルタアドバンストレイヤー)

藤井豊子 (ソニー)

渡邊和宏 (京セラ)

○イメージング材料部会

主 査

横山正明 (大阪大学)

委 員

岡野光俊 (東京工芸大学)

小林範久 (千葉大学)

内藤裕義 (大阪府立大学)

長山智男 (リコー)

半那純一 (東京工業大学)

星野勝義 (千葉大学)

○シミュレーション技術部会

主 査

門永雅史 (リコー)

委 員

伊藤朋之 (富士ゼロックス)

加川哲哉 (コニカミルタビジネステクノロジー)

川本広行 (早稲田大学)

仲野正雄 (キヤノン)

中山信行 (富士ゼロックス)

長谷部 恵 (富士ゼロックス)

平林 純 (キヤノン)

前田昌孝 (ブラザー工業)

村社純一 (富士通研究所)

○デジタルファブリケーション部会

主 査

酒井真理 (東京大学)

委員

梅津信二郎 (東海大学)

小田正明 (アルバック)

鈴木 明 (千葉大学)

鈴木幸栄 (リコー)

染谷隆夫 (東京大学)

西 眞一 (コニカミルタIJ)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

○画像感性部会

主 査

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

委員

内堀法孝 (セイコーエプソン)

鎰谷賢治 (リコー)

北久保 茂 (日本工業大学)

木村正利 (富士ゼロックス)

竹内達夫 (キヤノン)

多田達也 (キヤノン)

松木 眞 (元NTTクオリス)

服部好弘 (コニカミルタビジネステクノロジー)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

横山正明 (大阪大学)

◎コンファレンス委員会

委員長

阿部隆夫 (信州大学)

委員

大西 勝 (ミマキエンジニアリング) 中山喜萬 (大阪大学) 山崎 弘 (コニカミルタビジネステクノロジーズ)
竹内達夫 (キヤノン) 平倉浩治 (HiRAC)

◎事業委員会

委員長

大橋豊史 (三菱化学)

委員

上原康博 (富士ゼロックス)

学会標準品部会

画像評価技術部会(伊藤主査)およびトナー技術部会(多田主査)と連携

講習会部会

シミュレーション技術部会(門永主査)と連携

講習会実行委員長 黒須久雄 (リコー)

講習会実行委員

伊東 展之 (キヤノン) 萬道律雄 (王子ホールディングス) 吉澤孝一 (セイコーエプソン)
稲葉 繁 (富士ゼロックス) 水野恒雄 (水野国際特許商標事務所) 吉田 稔 (東芝テック)
笠間 稔 (富士ゼロックス) 山崎 弘 (コニカミルタビジネステクノロジーズ) 和田光央 (三菱化学)

◎運営委員会

委員長

中居仁司 (ブラザー工業)

副委員長

北久保 茂 (日本工業大学)

副委員長

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

委員

小沢義夫 (京セラドキュメントソリューションズ) 竹内達夫 (キヤノン) 橋本 清文 (コニカミルタテクノロジーセンター)

◎関西委員会

委員長

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

委員

岩田将和 (三洋化成工業) 荘所義弘 (村田機械) 夏原敏哉 (コニカミルタビジネステクノロジーズ)
金本成一 (ブラザー工業) 高島祐二 (ハイランドテック) 浜田敏正 (シャープ)
狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ) 内藤裕義 (大阪府立大学) 三木隆司 (バンドー化学)
川上哲哉 (京セラ) 中山喜萬 (大阪大学) 山崎征人 (花王)
倉本信一 (リコー) 長江 偉 (三菱電機) 横山正明 (大阪大学)

◎選奨委員会

委員長

内藤裕義 (大阪府立大学)

委員

阿部隆夫 (信州大学)

大橋豊史 (三菱化学)

面谷 信 (東海大学)

金本成一 (ブラザー工業)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

酒井真理 (東京大学)

前田秀一 (東海大学)

辰巳節次 (富士フイルム)

中居仁司 (ブラザー工業)

中山信行 (富士ゼロックス)

長山智男 (リコー)

半那純一 (東京工業大学)

◎財務委員会

委員長

辰巳節次 (富士フイルム)

委員

神野文夫 (王子ホールディングス)

細矢雅弘 (東芝)

山崎 弘 (コニカミルタビジネステクノロジー)

◎国際交流委員会

委員長

半那純一 (東京工業大学)

委員

岡 建樹 (コニカミルタビジネステクノロジー)

北村孝司 (千葉大学)

竹内 学 (ユーテック)

中山喜萬 (大阪大学)

星野坦之 (日本工業大学)

◎広報委員会

委員長

長山智男 (リコー)

委員

木村正利 (富士ゼロックス)

内藤裕義 (大阪府立大学)

副委員長

佐藤利文 (東京工芸大学)

中島一浩 (キヤノン)

服部好弘 (コニカミルタビジネステクノロジー)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

◎企画委員会

委員長

酒井真理 (東京大学)

委員

大倉浩和 (三菱製紙)

面谷 信 (東海大学)

正道寺 勉 (日本工業大学)

中島一浩 (キヤノン)

服部好弘 (コニカミルタビジネステクノロジー)

森下浩延 (出光興産)

◎ビジョン委員会

委員長

竹内達夫 (キヤノン)

委員

阿部隆夫 (信州大学)

池田光弘 (三菱製紙)

面谷 信 (東海大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

神野文夫 (王子ホールディングス)

中山喜萬 (大阪大学)

